

(株)ハッピーラフト

新型コロナウイルス感染症拡大予防対策マニュアル

2021/8/3 Ver.8

目的

従業員とお客様、地域住民の方がコロナウイルスに感染することを防止することが主な目的である。

- ガイド、スタッフが感染しない。
- お客様に安心して遊んでいただける環境を構築する。

リスクの評価

密閉空間で行われる他のイベントや娯楽施設と比較して、私たちの活動は比較的风险が低い、またはコントロールが可能な活動である。

- 活動は基本的に屋外で行われる
- 待合スペースには壁が少なく換気が良好な状態を保つことができる。
- 各ツアーの来客数は1名から50名程度と少なく、必要に応じて調整が可能である。
※厚生労働省発表 <イベント開催の可否の判断目安>
 - ・屋内：100人以下かつ収容定員の半分以下の参加人数
 - ・屋外：200人以下かつ人と人との距離を2m程度確保
- 2mの距離を保つことがほぼ保証される。
- 来客者の詳細が分かっているため追跡を連絡が容易に行える。
- 来客者の一部はすでに濃厚接触者（家族/学校のクラス等）である場合が多いので2mの距離を作らなくてもいい場合がある。

対策とルール① 一般

来場規制

新型コロナウイルス感染症拡大を防止し、皆様の安全を確保するため、下記に該当する方の来場を制限する。

- コロナウイルス感染症の兆候が見られる方
 - ・発熱（平熱+1度以上）や風邪の症状がある方

- ・強いだるさ（倦怠感）や息苦しさがある方
- ・咳、痰、胸部不快感のある方
- ・嗅覚・味覚に異常を感じる方
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去 14 日以内に、政府から入国制限、入国後の観察期間を必要と発表されている国/地域等への渡航、並びに当該在住者との濃厚接触がある方
- ・その他新型コロナウイルス感染の可能性がある症状のある方

施設内衛生管理・感染防止策

- ツアー参加者全員の事前体温チェックを行う。
- 可能な限り、入口及び施設内へ手指消毒剤配置及び消毒を行う。
- 更衣室、トイレ入口のドアや窓を開け、換気扇を回すなど、2方向で換気を行う。
- トイレ、更衣室のハンドドライヤー・共通タオルの常設を廃止する。
- 便器内は通常の清掃で良い。
- 便器の蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- 共有する物品（手がよく触れるところ）を、定期的に消毒する。
- こまめな手洗いを徹底する。
- お客様とスタッフのマスク着用を徹底する。（但し活動中を除く）
- できるだけ現金の扱いを避けるためキャッシュレス決済か事前振込みを推奨する。
- 混雑時、待合スペースでの待機を控えていただき屋外もしくは車内で待機いただく。
- 長時間（15分以上/濃厚接触の基準）の対面接客は行わない。
- 同意書、傷害保険申し込み等事前にできることはツアー当日以前に済ませておく。
- 貴重品は極力車内に保管していただき、鍵だけをお預かりする。
- 可能な場合は屋外エリアを使用し、それ以外の場合は2mの距離を保つことができるように容量を制限し、換気を十分に行う。
- 社用車でお客様を輸送するときに、外気の循環を確保するとともに、全員がマスクを着用する。
- レンタルタオル、レンタル水着は廃止する。
- 事務職員にはリモート作業を推奨する。

スタッフの健康管理

- 就業前の体温チェックを徹底し、お客様の来場制限に該当するスタッフを出勤停止

とする。

- 家族等同居者に感染者や感染者への接触があることが判明した場合は、出勤停止とし、他のスタッフとの接触について正確に把握する。
- ユニフォームや衣服はこまめに洗濯する。

感染者が発生した場合の対処

- 即時に保健所へ報告し、求められる情報の速やかな開示を行う。
- 保健所の指示に従った上で速やかに閉鎖を決定し、関係者への周知を徹底する。
- 関連者リストの提出を求められた場合に備え、個人情報の取扱に留意しながら、来場者名簿等を整備・管理する。

対策とルール② 活動（イベント）ごと

ラフティング

- 河原での安全説明、スタート前の練習、実際の川下りの際にもグループごとのソーシャルディスタンスを維持する。
- お客様のライフジャケットを装着、点検する際にはなるべく正面には立たず、真横から行う。その際、可能な限りマスクを着用し、会話は控える。
- 川の上ではなるべく他のボートと2 m以内の距離に近づかない。
- お客様をボートに引き上げる際には、可能な限り対面での引き上げは行わない。
- 飛び込みやボートを使ったゲーム等を行う場合、人と人との接触を控える。（同じグループ内であればこの限りではない）
- 個々のパドルが混ざらない、共有しないよう配慮する。（同じグループ内であればこの限りではない）

機器の取り扱い

- レンタル用のウェットスーツ、靴、スプレージャケット：使用後は毎回適切な洗剤で洗う。
- ヘルメットとパドル：使用後は消毒剤で洗浄するか、時間的な余裕があれば直射日光に当てて殺菌、消毒を行う。
- ライフジャケット、ボート：定期的に清掃する。
- ツアー中は、個々の機材を厳格に分離する。
- 複数日コースの場合、コースの最後に清掃を行うことができる。

○ガイドの機器：ガイドは個人の機材を使用して定期的に清掃する。

キャニオニング

- 最大参加人数を変更し、13名までとする。
- 河原での安全説明、スタート前の練習、実際の活動の際にもグループごとのソーシャルディスタンスを維持する。
- お客様のハーネス等を装着、点検する際にはなるべく正面には立たず、真横から行う。その際、可能な限りマスクを着用し、会話は控える。
- 渓谷の中でお客様を待機させる場合にも場所、距離を考慮する。
- 飛び込み等を行う場合、人と人との接触を控える。(同じグループ内であればこの限りではない。

機器の取り扱い：

- レンタル用のウェットスーツ、靴、スプレージャケット：使用後は毎回適切な洗剤で洗う。
- ヘルメット：使用後は消毒剤で洗浄するか、直射日光に当てて殺菌、消毒を行う。
- ハーネス：定期的に清掃する。
- ツアー中は、個々の機材を厳格に分離する。
- 複数日コースの場合、コースの最後に清掃を行うことができる。
- ガイドの機器：ガイドは個人の機材を使用して定期的に清掃する。

飲食

- ツアーに含まれる食事を提供する際には、ビュッフェスタイルは中止する。手洗いマスクの着用等衛生面に留意した上で、特定のランチスタッフが作りお客様個人個人に取り分けて提供する。
- 盛り付け担当者の衛生管理徹底
- 従業員の衛生管理徹底
- 食事をとるテーブル椅子は定期的に清掃、消毒を行う。
- コップ、皿等の食器類は極力使い捨てのものを使用する。

- トング、箸等の機材はグループ間で共用しない。
- 下膳作業後の手洗い、手指消毒の徹底
- 各テーブルには1つのグループに限定し、横並び着席の推奨、テーブルの間隔を広げる。

宿・ゲストハウス

宿泊の受け入れは、1つの宿に1グループと限定する。

- 宿泊客、従業員の中に無症状感染者がいる可能性があることを踏まえて、感染防止策を取る
 - 従業員と宿泊客及び宿泊客同士の接触をできるだけ避け、対人距離を確保（できるだけ2mを目安に）する
 - 入口及び施設内の手指の消毒設備の設置
 - 施設及び客室の換気
 - 施設内の定期的な消毒
 - 従業員の毎日の体温測定、健康チェック
 - 他人と共用する物品や手が頻繁に触れる箇所を工夫して最低限にする。
 - 複数の人の手が触れる場所を定期的に消毒する
 - 手や口が触れるようなもの（コップ、箸など）は、適切に洗浄及び消毒する又は使い捨てにするなど特段の対応を図る
 - 手洗いや手指消毒の徹底を図る
 - 社用車で送迎の場合は、密集しないよう人数を制限して運行する
 - 従業員による説明ではなく、文書の配布や動画の紹介等を導入
 - ドライヤー等備品の清拭消毒
 - 歯ブラシ等のアメニティーは持参を要請
- 清掃時の注意点
- マスクを着用し、使用後のリネン類は、回収後に人が触れないように密閉保管
 - 清掃時のマスク・使い捨て手袋の着用
 - 浴室内の設備・備品を清拭消毒・清掃時に換気し、完全に空気を入れ替える
 - 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃する
 - 通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、始業後に清拭消毒する。
 - 手が触れることのない床や壁は通常の清掃でよい。
トイレ（※感染リスクが比較的高いと考えられるため留意する。）
 - 便器内は、通常の清掃が良い
 - 不特定多数が接触する場所は、清拭消毒を行う

- トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- ペーパータオルを設置するか、個人用にタオルを準備する
- 常時換気をオンにしておくなど換気に留意

※ 本ガイドラインは、今後の各地域の感染状況を踏まえて随時見直しを行います。